

衝撃のクライマックスに感動の拍手 ～創作文を読み合う～

12月21日(水)、平良直美先生が授業を公開しました(1年8組)。本時は、小説『星の花が降るころに』の創作文を読み合い、多様な考えを交流する活動を通して、作品に対する自分の考えを深めることが目的です。直美先生のたくさんのイイね！を以下に紹介します。

イイね① 生徒が前時で作成した創作文の展開予想を紹介することで、**本時の問い**につなげていた(図1)。生徒がワクワクしている表情がよく見えましたね！

イイね② グループで他者の創作文を読み合う場面を設定し、付箋紙を使って気づいたことを記入し、交流する場面を設定することで(図2)、**生徒が創作文を推敲するきっかけ**を与えていた(相互評価)。

授業終盤に、グループで『Good 作品』を決め、押し創作文を共有する場面がありました(図4)。特に、Kさんの発表(創作文)は、**思春期まっただ中の中学生の恋心や、繊細な心が紐解かれており、多くの生徒の共感**を得ていました。そして、「**やっぱり訳がわからない…**」で締めくくる衝撃のクライマックスに、リスペクトの拍手が鳴り止むことはありませんでした。生徒のアイデア(発想)は多種多様で本当に面白いですね。

直美先生、楽しい授業ありがとうございました(^)/

★みんなの第5場面
展開予想★

「私」が「夏実」に謝って仲直り。
「夏実」と仲直りして、再び銀木犀の木の下で笑い合う。
「私」と「夏実」は仲直りできないけど、「戸部君」との仲が深まる。
「私」と「夏実」は仲直りして、「戸部君」と付き合う。
「私」と「夏実」は仲直りするが、「戸部君」とは仲が悪くなる。
「戸部君」と「私」が仲良くなる。
「夏実」とはそのままの関係で、「戸部君」とも何もなし。数年後、夏実と再会し、友達になる。
「新しい友達」と銀木犀の花を拾う。

図1 前時で書いた創作文より、本時の展開を予想！

作品を読み合おう！

【方法】
①グループの人の書いた、第5場面と理由を読み合う。
②付せん紙に、感想や気づいたことを記入する。

◎良かった点や疑問点

名前()

忘れずに記入！

③全員の作品を読み終えたら、付せん紙を交換し、感想を交流する。

グループ内の『グッド作品』を決めよう

図2 創作文を読み合い、コメントを記入する！



図3 グループの創作文を読み合っている場面

1文1文に深い意味が
あり、すばいと思いました。
銀木犀は、いつか/うれしきう
所が、という表現が、いいな
と思いました。

みゆさんとりりさんは、僕とは違って、夏実と仲良くなったり戸部君と仲良くしたりするというのがいいと思った。ひできさんはおさななじみを登場させてすごいと思った。自分の改善点は、会話文を入れることができなかったところです。

図5 上は、Hさんが書いたIさんへのコメント、右は、仲間の感想を読んだ後の、Iさんの改善点

Iさんにインタビュー『仲間の創作文を読んでどうだった？』

やっぱり人はそれぞれで、いろいろな意見や考え方があり、創作文だとその人の個性が出るから読んで面白かった。



図4 押し創作文を発表している場面